

研究所活動日誌

8月3日第3回常任理事会

4日編集委員会

教組東蒲原郡支部「母と女教師の会」

師の会

18日地域民教全国交流集会（〜20）

（岐阜県恵那市）

24日県民教夏の集会（〜25）

25日関東甲信越保健部のつどい

26日聖籠町調査

27日「学閥」研究会打ち合せ

28日第2回「学閥」研究会

29日事務局会議

31日第3回理事会

9月3日事務局会議

5日栃尾市中学校統廃合問題調査

6日会計監査

8日第一期教育セミナー（志摩陽伍講座）

9日三島郡寺泊町中学校統廃合問題調査

題調査

13日事務局会議

聖籠町調査

14日新潟市職労婦人教育懇談会

15日第2回総会

20日事務局会議

22日第3回「学閥」研究会

27日事務局会議

28日自治体問題全国研究大会

（〜29・福島市）

30日事務局会議

10月3日第4回教育と人権研究会

4日事務局会議

6日課外体育研究会初会合

8日事務局会議

12日85年度第一回理事会

17日授業創り研究会公開授業（越路小高橋先生）

路小高橋先生）

19日聖籠町調査

20日「生活・健康・子育て」を考える会

える会

22日「いじめ」、体罰シンポジウム打ち合せ

ム打ち合せ

24日石山地区教育懇談会（新潟市）

26日編集委員会

事務局会議

臨教審学習会（新潟大学）

29日「いじめ」克服パンフ作成会議

議

11月1日「君が代・日の丸」問題学習会

会

2日山形県温海町旧厳川小統合問題現地調査

題現地調査

5日事務局会議

9日「いじめ」・体罰シンポジウム

ム

県自治体学校（〜10）

12日事務局会議

干溝小統廃合問題現地調査

大江山地域調査

13日聖籠町調査

15日第35次県教研（〜17）

19日新津第2小PTA講演会

20日教育懇談会（新潟市）

24日北信越教育系学生セミナー

記念講演（木村隆利）

編集後記

師走は十二月の異称ですが、太陽暦になった現在でもそのまま使われています。考えてみればおかしなことですが、このようなことはよくあることで、言葉の世界だけではありません。勿論、教育の世界にも多くあります。

十一月は教師にとって忙しい月です。「文字どおり師走です。」

『日本国語大辞典』（小学館）には師走の語源話が十ばかり掲載されていますが、その筆頭は「経をあげるために師僧が東西を馳せ走る月であるところから、シハス（師馳）の意」です。

今年をふりかえってみますと、教育界、特に教育現場は一日中が師走でした。六月下旬に臨教審第一次答申。七月五日、全閣僚による「教育改革推進会議」の設置を閣議決定。直ちに初会合。同日、文部省は「教育改革推進本部を省内に設けて改革に着手。対応の

速さに驚きます。

臨教審答申に現状分析はありますが、有効な手だては何ら示されていません。

しかし、臨教審体制は現場で先行しています。現場は上からの管理で多忙を極め、子どもと心が通いにくくなり、安易な指導法？管理主義になる側面もあります。非行、暴力、いじめ、校則、体罰等々、問題は数多くあります。臨教審は無駄な（有害な？）制度いじりをやめて、さしあたり、教師に自ら考えて実践するゆとりを保障してほしいと言いたいぐらいです。

管理体制の実態について小中高の現場の先生に書いていただきました。管理され、また、管理している先生方の苦悩と良心を垣間見ることができます。

メーン論文は新大の阿部先生が書いて下さいました。管理主義がはじめを育むという鋭い分析、それにとどまらず克服の手だてまで論及。熟読したいものです。北新支部の教育運動の前進にも大きな示唆を与えるものと思われ

ます。

北新支部は、教職員の権利とともに、子どもの権利（特に学習権）を守ることに努力している支部です。今後のとりくみが期待されています。なお、研究所会員の約二割が北新支部であることは、運動の現れであると思われれます。PTAの立場から、母親の立場から、あるいは、随想という名の立派な教育論、ありがとうございました。

合同法律事務所の中村、土屋両先生に子どもの人権についておうかがいしました。私はうかつにも子どもの人権を侵害していた事の数々を思い出し赤面。

小説は財政上の理由で中断して申し訳ありませんでした。もう二回連続して完了となります。次は、会長・長崎先生の自伝を予定しております。

新年おめでとうという言葉が、単なるしきたりではなく、本当に人類の幸福を意味するような年にしたいものです。

（若月又次郎）